

保育現場の ICT化をはじめたい人へ

園の働き方を変える ICT活用事例集



はじめの一步を応援 ICT活用で園内改革！



保育施設においては、女性就労者の増加に伴い、保育ニーズの多様化が進み、保育士の業務は多忙化・複雑化しています。保育士の処遇改善を図るとともに、保育の質の向上に向けた取組が益々重要となっています。保育士の業務負担を軽減し、業務の効率化を図るために、ICTを活用してコミュニケーションの円滑化や情報処理の自動化を図ることが注目されています。

しかし、保育現場においては、導入以前に、インフラ整備や職員のICTスキルなどが不十分といった課題や、導入メリットの共通理解が得られていないことなどから、ICTの十分な活用には至っていません。

静岡県では、保育現場におけるよりよいICT運用を支援し、業務改善を促すことを目的に、「これからICTを導入したい」「既存のICTを更に活用していきたい」といった導入段階の異なる10施設の巡回支援を実施しました。それぞれの導入・活用にあたっての目的や課題、支援内容を本紙にまとめました。



◎巡回支援者

石切山 太郎・橋ヶ谷 みわ子

静岡県焼津市にあるIT企業・サンロフトで、園向けIT専門紙の発行や園児管理システムやホームページ制作、動画配信を中心とした園のICT化支援に取り組んでいる。

ICT活用に向けて、園の環境や業務を最適化

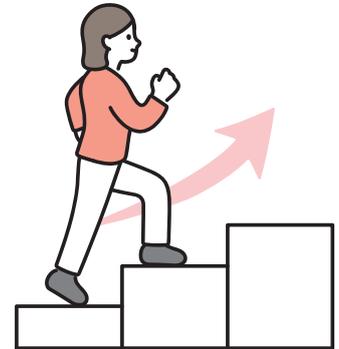
保育施設が、「ICT導入が進まない」または「導入に不安を感じる」要因として、人材確保や機器・通信などの環境設備の遅れ、保育ICTシステムを活かすことのできる自園の業務が不明などといった課題が挙げられます。これらの課題によりICT導入後の効果や成果をイメージできず、結果として「どこから手をつければよいのか分からない」という状況を生み出しています。ICTを導入するにあたっては、**組織全体の環境や業務が最もよい状態になること（全体最適化）**を目指して、検討を進めることが大切です。そのためには、「施設ごとに必要な土台づくり」と「業務ごとに選択する手段」に段階を分けた計画が効果的です。



静岡県内10施設を巡回支援 ヒアリング・講習会を通じて ICT 導入・活用を後押し

まず、ICT活用チェックリスト(※)を用いて、各園の現在のICT環境を確認しました。その後、ICTに限定せず課題と感じている業務や事務、環境整備の状況などについてヒアリングを行い、巡回支援者から保育ICTシステムや機器・ツールの導入計画を立案。その計画をもとに、保育ICTシステムなどの導入支援や運用に必要な知識を得るための講習会を開催しました。実際に利用を開始し運用する段階まで支援することで、ICT化の第一歩や活用促進を図りました。

※巻末付録のICT活用チェックリストをご参照ください。



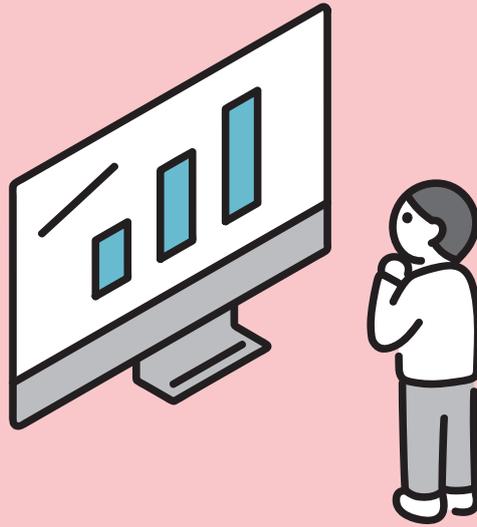
! ICT化に取り組んだ園からの声

- 指導計画のICT化を機会に、記述のルールや運用方法の見直しもできた(保育士)
- タブレット端末には保育に便利なアプリがいっぱいあることがわかった(保育士)
- 保育ICTシステムの活用は保護者支援にもつながる(事務長)
- 共通理解を持った上で疑問やアイデアを職員同士で共有することが大切(園長)
- 小規模保育事業所には遠い話だと思っていたが、ICTの可能性を感じた(園長)
- 今まで優先順位が低くやっていなかったことを試せる時間をつくり出せる(園長)
- デジタルでの職員間の円滑な情報共有のカギは、受け手が反応を示すこと(主任)
- 動画配信はハードルが高いと思っていたけど、思ったより手軽にできそう(園長)
- 職員が積極的に使ってみようとしたり教え合ったりする姿が増えた(園長)
- Google Workspaceのスプレッドシートなどは様々な業務に活用できそう(園長)

保育現場におけるICT導入において大切なこと 機能ではなく、「園のありたい姿」を明確にする

「ICT化をはじめよう!」と思ったとき、まず考えていただきたいことは「園のありたい姿」です。「保育業界に特化したシステムを探すこと」「Wi-F環境を整えること」などの具体的なアクションが思い浮かぶかもしれませんが、まずは「安全に保育をしたい」「ノンコンタクトタイムを確保したい」といった園のありたい姿を明確にし、「誰が」「どこで」「どうやって」作業することでその姿が実現するのかを検討することをおすすめしています。例えば、「誰が」作業するかが決まれば「確保すべき端末」が、「どこで」作業するかが決まれば「園内のどこにWi-Fi環境を整備すべきか」が、「どうやって」が決まれば「導入すべきツール」が、自ずと決まってきます。園のありたい姿を明確にすることで、どの業務を改善する必要があるのかを考えやすくなります。園の考え方や職員の皆さんに合ったICT化を考えていきましょう。





実践園の声、集めました。

ICTで変わる園業務

本事業では、ICT活用に関心のある10施設に現在のICT活用状況と課題をヒアリング。全5回にわたって巡回支援を行いました。業務効率化や園内コミュニケーションなど、導入による変化を伺いました。

■ 隙間時間でも指導計画書づくりを可能に（草薙ふたばこども園）	4
■ 保育ICTシステムで働き方改革と保育の幅を拡充（相良保育園）	5
■ 諸費用計算・請求業務の自動化で時間創出（認定こども園中央幼稚園）	6
■ 初のICT導入に向けて意識づくり（牧之原保育園）	7
■ 情報がより確実に行き届くしくみづくり（すこやか保育園）	8
■ 園内情報集約で職員連携を強化（しょうれんじこども園）	9
■ メッセージングアプリで職員間の情報共有を円滑に（こばと保育園）	10
■ 動画配信で保護者との関係性を深める機会創出（しいの木保育園）	11
■ PowerPoint・Excelを学ぶ研修で職員の安心感を醸成（みつばち保育園）	12
■ デジタル化で監査対応を効率化 BCP対策にも（さんくすピッピ保育園）	13
■ 【付録】ICT活用チェックシート	14

隙間時間でも指導計画づくりを可能に 職員の時間創出・省力化目指す

ICT導入を考えた背景

- 指導計画の作成業務の見直し
- 共同パソコンの不足による非効率の解消
- ICTによる職員の長時間労働・残業の削減

すでにシステムは導入していたものの、指導計画書は園独自の書式に対応できず、Excelで作成していました。また、パソコンの台数が少なく、書類作成の順番待ちも頻発。限られた職員・時間の中でよりよい保育を実現するべく、業務を省力化できる別のシステムを探し始めました。



ICT化に伴い従来の指導計画書を見直し



システムでの指導計画書作成画面

枠の大きさや塗りつぶしの色など自由にカスタマイズ可能。教育要領／保育指針の引用機能で文章作成がより効率的に。

取り組み内容

- システム化する業務の範囲の定義
- 自園に合わせて設計できるシステムの選定
- パソコンやタブレット端末の導入

一度にすべての帳票をICT化するのではなく、まずは時間がかかる指導計画書に注目。自園の方針や業務に合わせて、帳票を自由に設計可能なシステムを選定しました。併せて、削減できる印刷物や入力項目はないか？導入を機に、業務の見直しも職員で話し合いました。

成果・期待する効果

職員室の共用パソコンが限られており、園児の降園後に作業する職員が多かった同園。職員全員分の端末とシステムの導入により、保育室を離れなくても隙間時間に各部屋で業務を進められる環境が整いました。また、登降園管理など別帳票とのデータ連携や、指導計画書の作成に役立つ文章検索・引用が可能に。情報の一元管理や文章作成の効率化に役立っています。保護者連絡もアプリで簡便になりました。

巡回支援者より

園の業務をICT化する際、その目的や対象となる業務をしっかりと見定めることがポイントです。草薙ふたばこども園では、「まずは保育者の時間をつくりたい」「そのために指導計画を作成する時間を見直したい」という明確な目的・業務を対象としていたことが、好事例となりました。



自園に合った保育ICTシステムで 働き方改革と保育の幅を拡充

ICT導入を考えた背景

- 指導計画作成における職員の負担軽減
- 保護者連絡を円滑にしたい
- 業務見直しを通じた保育の質向上

相良保育園では、指導計画作成や出欠連絡などをはじめとした人の手がかかる業務や伝達もれが起きやすい口頭での連絡が課題となっていました。職員の働き方を改善し保育の質向上につなげていくため、自園に合った保育ICTシステムやツールを導入することを決めました。



日常保育で役立つアプリやiPad活用を学ぶ

	システム A	システム B
月額費用	33,000 円/月 (定員31~100名)	無料
保護者用アプリ	あり	なし ・ブラウザに保護者連絡機能あり
登降園管理入力方法	ICカード・QRコード・タッチ式	QRコード・タッチ式
メール機能	あり	あり(既読確認機能付き) ・園全体・クラス別・個人に配信可
園児台帳	・保護者が児童票と家庭情報の入力、変更できる	・施設が児童票と家庭情報の入力、変更する
指導案・日誌	・日誌には約 5,000 の文例あり ・施設独自の書式の取り込みが可能	・例文があり、カスタマイズも可能 ・個別日誌は保護者連絡機能に反映
保護者連絡機能	・アプリに集約 ・欠席連絡が出席簿に反映される	・保護者連絡機能に欠席連絡あり ・施設側の承認後に欠席実績登録→出席簿に反映

保育ICTシステムの比較項目

保護者向けの機能やアプリの使い方など、実際の運用を想定しながら操作性を確認。

取り組み内容

- 業務の棚卸しと軽減したい業務の優先度の検討
- 保育ICTシステムの選定
- 保育ICTシステムのデモ体験

保育ICTシステムの選定における課題は、システムが多岐にわたることと世代によりICTの理解度が異なることでした。同園では、業務の棚卸し・保育ICTシステムのデモ体験を管理者・職員で実施。複数のシステムを比較検討した上で、自園に適したサービスを導入しました。

成果・期待する効果

業務の棚卸しの結果、相良保育園では登降園管理や保護者連絡、指導計画の作成業務のICT化に取り組むことを決めました。システムの選定では比較表を作成し、現場の職員に評価や感想を記入してもらった上で管理者による最終評価を実施。今後は、システム導入により職員の負担を軽減するとともに、あわせて購入するタブレット端末を日常保育に役立てること（楽譜アプリやノートアプリの活用）を検討中です。

巡回支援者より

職員が集まった上で業務の棚卸しを行い、園全体の業務や課題を全員で「見える化」したことで、ICT化の対象となる業務や目的がはっきりとしました。対象が明確となれば検討するシステムの比較表が容易につくれ、評価もしやすくなります。タブレット端末には保育に役立つ用途も多々ありますので、活用してみてください。



諸費用計算・請求業務を自動化 自園の労力をより重要な業務へ

ICT導入を考えた背景

- 延長保育や用品の料金請求業務が多い
- 諸費用の現金での受け渡しの削減
- 導入済みの保育ICTシステムの有効活用

同園ではこれまで請求業務はすべて手計算で行っていました。しかし、保育無償化をきっかけに延長保育料金の計算が煩雑化。さらに、用品の購入も多く同様に負担になっていました。そこで、すでに導入しているシステムを有効活用し、請求業務のスピード化に取り組みました。

園児名	用品カテゴリ	用品点数	費用
東海ゆき	絵の具	1	380
	教材	1	480
小計			860
合計			860

用品購入・請求の手間を最小限に

保護者のスマートフォンや携帯電話から用品を注文できるほか、園側で保護者の注文を一括して登録することも可能。

園児姓	園児名	保育者1姓	保育者1名	銀行コード	2022年度の学年	2022年度の
<input checked="" type="checkbox"/>	中島	五郎	中島 一郎	9852	5歳児	うめ
<input checked="" type="checkbox"/>	新入	園子	新入 園児親	1234	5歳児	うめ
<input checked="" type="checkbox"/>	沢下	歌歩	沢下 陸介	9900	5歳児	うめ
<input checked="" type="checkbox"/>	池井	圭子	池井 秀志	9900	5歳児	うめ
<input checked="" type="checkbox"/>	桜木	三太郎	桜木 隼人	1234	5歳児	うめ
<input type="checkbox"/>	中島	陸	中島 一郎	9852	4歳児	もも
<input type="checkbox"/>	中島	四郎	中島 一郎	9852	4歳児	もも
<input type="checkbox"/>	三糸	松	三糸 一郎	9852	4歳児	もも
<input type="checkbox"/>	佐藤	太郎	佐藤 親太郎	9900	4歳児	もも
<input type="checkbox"/>	吉田	花子	吉田 親太郎	1234	4歳児	もも
<input type="checkbox"/>	田中	五郎	田中 一郎	9900	4歳児	もも
<input type="checkbox"/>	山本	あゆみ	山本 一郎	9852	4歳児	もも
<input type="checkbox"/>	市川	太郎	市川 親太郎	1234	4歳児	もも
<input type="checkbox"/>	河本	桜子	河本 親太郎	9852	4歳児	もも

全銀データの出力がスムーズに

取り組み内容

- 毎月発生する諸費用の請求業務の棚卸し
- システムで対応できる請求項目の確認
- 諸費用計算・全銀データ出力の自動化

まずは、手計算・現金でやりとりしている請求から、毎月発生する請求項目を洗い出しました。その中から、バス代や給食代、絵本代など、システムで対応可能な諸費用項目と金額を設定。ボタンをクリックすれば、自動で計算から全国銀行データの出力までできるように整備しました。

成果・期待する効果

保護者はアプリを使って用品の注文が可能となり、担当職員の受付業務も非常に簡便になりました。これまで手計算で毎月3日以上かかっていた請求業務も、ほぼ自動化されるため5分ほどで完了できます。全国銀行データ通信システムで扱う請求データも簡単に生成でき、データを銀行に送信すれば銀行の口座引き落としまでシステム化可能。業務の時短で、自園の労力をより重要な業務に充てられるようになります。

巡回支援者より

各種料金の請求業務をアナログで行う場合、集計袋の用意や金額を確認する手間、紛失のリスクが発生します。監査対応や行政とのやりとりまでを考えると、かかる時間も侮れません。ICT化すれば、ボタン一つで用品の注文受付、請求業務、口座引き落としまで自動化可能。人的ミスの心配も払拭でき、保護者への満足度にもつながります。



職員全員で共通認識・ルール作成 初のICT導入に向けた土壌づくり

ICT導入を考えた背景

- パソコンやシステムに対する不安感の緩和
- 保育以外の業務の負担軽減
- 共用パソコンの不足

牧之原市の公立保育園では、新年度からシステムの一斉導入が決定。牧之原保育園は日誌や連絡帳は手書きが主でシステム導入は初めてでした。パソコン操作自体に不安を持つ職員が安心できるよう、ICTの基本や運用のための共通認識づくりをはじめました。



ICTの基本・メリットを学ぶ講習実施



業務を細分化し、担当者や対応方法を整理

取り組み内容

- ICT化のメリットやセキュリティ講習の実施
- 業務の棚卸しワークショップの実施
- システム化する業務の優先順と活用計画決定

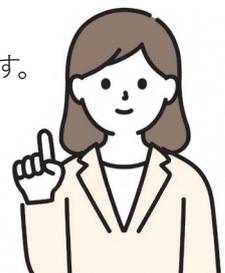
まずは、ICT・セキュリティ研修で導入前の基礎知識や意識づくりをした上で、システム活用の範囲や役割分担を決めるワークショップを実施。保護者からの連絡の内容は多岐にわたりますが、これらを分類しグループ化、担当や対応内容をシステムに設定しました。

成果・期待する効果

職員教育や運用ルールの策定と並行して、Wi-Fi工事やタブレット端末の導入などの環境整備も進んでいます。これまでシステムを使う人間の見落とし・ミスによる事故への不安が大きかったものの、共通認識づくりや役割分担・ルールへの落とし込みを重ねることで心象的なハードルを下げていきました。職員の間では、連絡帳や児童表のデータ連動による入力業務の手間削減に期待する声も上がっています。

巡回支援者より

「ICT導入」という言葉だけでハードルに感じ、利用に消極的になってしまうことがあります。まずはICTで何を実現できるか？安全に使うために必要なことをお伝えしました。ワークでは、現在の業務をシステムにシフトできる部分を洗い出しました。「みんなで考える」ことで共通認識が生まれ、安心して導入をしていけるのではないかと思います。



情報がより確実に行き届くしくみづくり 園児19名の園に合ったICT化を模索

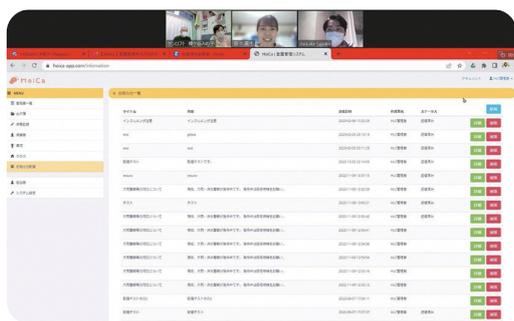
ICT導入を考えた背景

- メール配信時の保護者の既読状況の可視化
- 事務作業やブログ更新における保育者の負担
- 自園に合ったICT化の推進

すこやか保育園は園児19名の小規模保育事業所。システムは導入しておらず、保護者連絡もBCCメールで一斉送信。月々の園だよりも、園内の引き出しから保護者が各自受け取るスタイルでした。情報がより確実に行き届くしくみをつくろうと、自園に合ったICT化の一步を踏み出しました。



月々の園だよりは園長自らが Wordで作成



保育ICTシステムのデモ体験

体験したのは月額500円で登降園管理やお知らせ配信ができるシステム。導入のしやすさとシンプルな操作性が特徴◎

取り組み内容

- ICT化のメリットや注意点を学ぶ講習の実施
- 業務の棚卸しと軽減したい業務の優先度の検討
- 保育ICTシステムのデモ体験

ICT化がもたらす効果は業務効率化や保育の質向上、園児の安全確保や職員のスキルアップなど様々です。まずは園に合ったICT化を具体化するため業務の棚卸し（時間や発生頻度、難易度、担当者を書き出す作業）を**実施**し、少額で導入できる保育ICTシステムのデモを体験しました。

成果・期待する効果

注目したのは、システム活用によりメールとLINEでお知らせ配信ができることでした。BCC一斉送信で懸念されていた人的ミスを防ぐだけでなく、保護者の利便性が高まることで確認もれ防止につながります。今後、ICT活用がますます主流となることを見据え、現在はシステム導入や園だよりのデジタル配信（お知らせ配信やHPへの掲載）を検討中。ICTを学ぶことを通して、園全体のボトムアップを図っていく予定です。

巡回支援者より

BCCでの一斉送信は情報漏洩のリスクが生じるため、他の職員によるダブルチェックを徹底するなどの対策が必要となります。単純作業や繰り返し性のある作業、ミスが発生しやすい作業は、システムに任せることをおすすめします。小規模保育事業所が活用しやすい保育ICTシステムもあります。まずは園が実現したいことを整理してみましょう。



園内情報の集約で職員連携強化 情報伝達を迅速、正確、簡単に

ICT導入を考えた背景

- 2つの園舎の連携を強化したい
- 情報の行き違いをなくしたい
- 言った・言わないによるトラブルをなくしたい

同園では、2つある園舎が離れていることもあり、お互いの活動や情報が分断され、連携しづらい状況がありました。また、コロナ禍で連絡事項の伝達ミスによるトラブル防止も差し迫った課題に。職員同士がリズムよく連絡・伝達できるよう、コミュニケーションの強化に取り組みました。



今ある課題に対し、Google Workspaceの活用による解決アイデアを出し合う



Chatスペースで会話と資料共有

チームごとの会話スペースをつくり、各ツールと連携することで業務を一元管理することが可能に。

取り組み内容

- コミュニケーションに強みのあるシステム検討
- 「Google Workspace」活用説明会の実施
- ICTへの移行・運用手順を整理

チャットや施設予約、タスク管理、議事録作成など様々な情報を共有できるGoogle Workspaceを導入。教育機関は無料で始められることも魅力です。説明会では「散歩の予定時間をカレンダーで共有すれば被ることがなくなりそう」など、園の課題を解決する活用アイデアを出し合いました。

成果・期待する効果

「クラス担任」「卒園式」など用途ごとに関係する職員とのチャットスペースをつくることで、申し送り事項ももれなく伝達できるようになります。また、議事録も複数人で同時編集できるため、議事録作成の効率化や確認に回す時間も削減。従来、連絡に費やしていた時間やコストを、園外研修や近隣の福祉・介護障がい等の施設見学など、職員の人材育成や視野を広げていく活動に還元することを目指しています。

巡回支援者より

園全体の活動やスケジュールを情報共有・集積することは、コミュニケーションの効率化というだけでなく、相乗的な保育を計画できる意味合いもあります。グループウェアでは、オンラインで表計算をしたり、発表会の進行表をメンバーで共同編集したりと、様々な活動や課題解決に展開可能。職員で協議しながら自園なりの活用法を見つけましょう。



メッセージングアプリで素早く共有 職員間のコミュニケーションを円滑に

ICT導入を考えた背景

- 働き続けられる職場づくりの推進
- 職員間の情報共有で生じるタイムラグの解消
- ペーパーレスの推進と業務負担の軽減

こばと保育園では若い子どもを持つ職員が増え、勤務時間内で業務を完結できるしくみが課題となっていました。紙の園務日誌や朝礼・終礼、会議での情報共有はタイムラグや伝達もれが生じやすいことから、働き方改革の一手としてクラウドサービスによる情報共有を取り入れました。



職員間の情報共有にメッセージングアプリを活用



子どもの午睡を見守りながらアプリで連絡を確認

取り組み内容

- メッセージングアプリの操作研修の実施
- 運用方針やルールの作成
- 職員の利用・反応を高める風土づくり

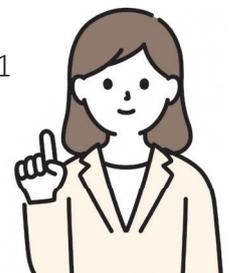
メッセージングアプリの操作方法や運用ポイントを学びました。「部会報告」「行事」「勤務表」などのテーマごとにチャンネル（会話スペース）を作成し、散在しがちな情報をアプリに集約。安心感のある活用を促すため、「受け手はスタンプやコメントで反応を示す」などのルールを作成しました。

成果・期待する効果

こばと保育園では以前、行事担当の職員が急遽休みになった際にメッセージングアプリが活かされました。担当職員がチャンネルで行事の流れや状況、準備物を共有していたことで、他職員も状況を把握しやすくスムーズな連携につながったそう。現在は日ごろの情報共有に加え、子どもの興味関心やその時々の保育者の気づきを共有するなど、職員全員で活用できる文化として定着させるべく試行錯誤を重ねています。

巡回支援者より

チームでの情報共有に長けたメッセージングアプリの良い点は、情報のやり取りが1対1に限定されておらず、参加者全員に開かれているところです。特定の人にメンション（宛先を指定）した場合も他職員がメッセージを閲覧できるため、状況把握やフォローがしやすくなります。大切なのは、「誰に」「何を」「どうしてほしい」を示してあげることです。



子どもの日常の姿を動画で配信 保護者との関係性を深める機会に

ICT導入を考えた背景

- コロナ禍の保護者とのコミュニケーション減少
- 保護者・保育者における不安感の増加
- 若手職員のICT活用に対する意欲の向上

コロナ禍の様々な規制により、園での子どもたちの様子を保護者が知る機会は減少しました。子どもの嬉々とした表情は周囲を明るくし、保護者と職員の会話を生みます。同園は保護者に安心感を与え、園との関係性を深めるため、子どもの育ちを伝える動画配信に取り組むことを決めました。



園児の様子をスマホで撮影する保育者



動画配信アプリの画面（無料アプリを利用）

取り組み内容

- 動画の特徴や注意点を学ぶ研修の実施
- 動画編集・配信ツールを使った実践的な研修
- 保護者向けの案内文書・同意書の作成

友だちとの会話や保育者の声かけによる子どもの変化や行動を伝えられる動画の特徴に注目し、PCを使った動画編集やアプリを使った動画配信の方法を学びました。配信と同時に保護者のスマートフォンに通知が届く利便性やセキュリティ面を考慮し、配信ツールにアプリを採用しました。

成果・期待する効果

同園では新年度からの運用を目指し、1階と2階に自由に利用できるタブレット端末や運用ルール、保護者への案内準備を進めています。集団生活の中で育つ子どもの姿を伝えようと、配信する動画のコンセプトは「ありのまま」。不適切保育に関するニュースで保育現場に不安が広がる中、情報公開や保護者とのコミュニケーションの新たな選択肢を得たことは、保育者のモチベーションにもつながっているようでした。

巡回支援者より

動画配信というと、YouTubeで限定公開した動画を共有している園も多いですね。しかし、その場合は共有した動画のURLが一人歩きする可能性も考慮しなくてはなりません。ポイントは、運用する園側と利用する保護者側の安心感や手軽な操作性、利便性や双方向性です。まずは無料ツールを試しながら、動画配信の感覚を掴んでいきましょう。



PowerPoint・Excelを学ぶ職員研修 ICTツールを扱う安心感と自信を醸成

ICT導入を考えた背景

- 職員のICTスキルの向上
- 貸与されているICT機器の有効活用

正規職員に1人1台のパソコンが貸与されているものの、Office365の操作に苦慮することも多く、職員のICTスキルの向上が課題となっていました。ICTの基本知識を習得し、安心して活用できる環境づくりに取り組みはじめました。



職員研修の様子



PowerPointやExcelで資料を作成

取り組み内容

- ICT機器を使用する上でのセキュリティ対策講座
- PowerPointとExcelの活用講座・実践

ICT機器を使用する上でのセキュリティ対策について学んだ後、PowerPointやExcelでクラスだよりや指導計画を作成する講座を職員研修として実施。文字入力や写真・図形の配置、表作成などの基本操作を学びました。

成果・期待する効果

以前はパソコンの操作に不安があった職員も、表現のコツや楽しさ、自信を感じられるようになりました。今後は指導計画をチェックシート形式にするなど簡略化し、効率化を図る予定です。

巡回支援者より

自身のイメージを工夫して表現したり、相談し合ったりする様子から、今後ますます活用が広がりそうだと感じました。職員が共に学べる場をつくり、安心感や自信につなげていきましょう。

column

こんなICTも楽しそう！ SNSを活用して地域社会に保育の営みを発信

園の対外的な情報発信としてホームページを運用されていると思いますが、訪れた方との継続的な接点づくりにSNSを活用してはいかがでしょうか。中でも写真や動画を簡単に共有でき、視覚的に魅力を伝える効

果が高いInstagramは、若い世代に広く使われているツールです。保護者に子どもの成長を共有するだけでなく、保育所保育指針にもある「地域社会に保育の内容を適切に説明する」手段のひとつとしても有効です。

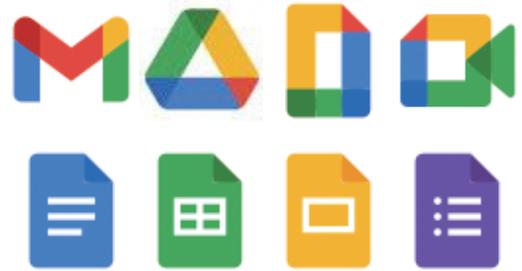


書類のデジタル化で監査対応を効率化 BCPを考えた体制づくりの手段にも

ICT導入を考えた背景

- 監査や労務管理における事務負担の軽減
- シフト作成の効率化

紙の書類とデジタルデータが混在していることから、監査の際に書類を探す手間が発生し、大きな負担となりました。また、系列園を兼務する職員らのシフト作成の効率化も ICT化に関心を寄せた一つのきっかけでした。



ストレージ内で文書を保管・作成できるツールも



Googleドライブで書類を一元管理

取り組み内容

- 園業務と監査で必要となる書類の棚卸し
- Googleドライブを活用した書類管理

「デジタル化する書類」「紙で残す書類」など管理方法を明確にするため、業務と書類の棚卸しを行いました。必要なときにデータを取り出せるよう、クラウドストレージを活用した保存を管理方法のベースとすることに決めました。

成果・期待する効果

クラウドストレージには Google ドライブを活用しました。書類のデジタル化は、監査対応に加えて、災害などによる被害を抑える BCP 対策にもつながらと期待が高まりました。

巡回支援者より

Google ドライブを使うと、質問フォームも作成できます。保護者連絡で利用している LINE など回答用 URL を共有し、フォームで結果を確認するといった合わせ技も可能です。

column

こんな ICT も楽しそう！ 職員間の情報共有に ICT を活用しませんか？

保育 ICT システムは保護者への連絡やコミュニケーションの機能が充実しています。一方で、職員間の情報共有の手段として、日報システムなどの ICT ツールを利用する園が増えています。日報のかたちで日々の

報告をあげたり、その報告に対してコメントやアドバイスを書き込むといった運用をしている園では、自分の保育のふりかえりや他の保育者の様子を知るといった保育の質の向上にもつながっています。



付録 ICT活用チェックシート

環境

小計

1	インターネット環境はありますか	✓
2	園舎全域に Wi-Fi 環境が用意されていますか	✓
3	パソコンやタブレットなど、保育者が使用できる端末はありますか	✓
4	パソコンやタブレットなどにセキュリティシステムは入っていますか	✓
5	保育 ICTシステムを導入していますか	✓

(左の数の合計)

知識

1	パソコン・タブレットの操作に詳しい職員はいますか	✓
2	個人情報や情報セキュリティの扱いについて、学ぶ機会がありますか	✓
3	保育者に ICTスキル (Excel・Word・PowerPoint) を学ぶ機会を作っていますか	✓
4	保育者に ICTスキル (オンラインミーティング・Google 等のクラウドサービス) を学ぶ機会をつくっていますか	✓
5	保育に使える保育 ICTシステム以外のアプリや周辺機器 (Bluetooth スピーカー等) について情報を集めていますか	✓

(左の数の合計)

業務

1	保育事務の中で ICT化したい業務 (延長保育の計算など) はありますか	✓
2	保育の中で ICT化したい業務 (出欠連絡など) はありますか	✓
3	管理業務の中で ICT化したい業務はありますか (シフト管理など)	✓
4	保育者が日常的に保育 ICTシステムなどに触れる機会がありますか	✓
5	ICT導入によって得られるメリットを関係者が理解していますか	✓

(左の数の合計)

コミュニケーション

1	園内：職員間で情報共有のシステム (LINE など) を使っていますか	✓
2	園外：保護者との情報発信のシステム (メールや連絡帳アプリなど) を使っていますか	✓
3	オンラインミーティング (Zoom、Google Meets) を活用していますか	✓
4	保育活動を保護者に理解してもらうためのデジタルツール (ホームページ・動画配信ツールなど) を使っていますか	✓
5	災害や感染症発生時等の緊急時において、電話以外に保護者に連絡する手段を設けていますか	✓

(左の数の合計)

管理体系

1	園内での ICTツール運用ルールについて規定を作っていますか	✓
2	システム導入に対して効果測定 (職員や保護者からの評価を集める等) を行っていますか	✓
3	電子データのバックアップ等は取られていますか (パソコン破損時の措置として)	✓
4	情報漏洩が起こった際に、対応フローは用意されていますか	✓
5	機器破損やシステム不具合時の緊急連絡先は用意されていますか	✓

(左の数の合計)



2023年2月発行

- 発行 静岡県 健康福祉部 こども未来局 こども未来課
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6 ☎054-221-3758
- 企画・編集 株式会社サンロフト
〒425-0074 静岡県焼津市柳新屋436-1 ☎054-626-3366

この冊子は静岡県の「令和4年度保育士等働き方改革推進事業」の一環として企画・制作されました。